徴用セラルベキ者其ノ居住ノ場所（國民職業能力申告令第二條第一號乃至第五號ニ該當スル要申告者ニシテ職業ニ從事スルモノナル場合ニ於テハ就業ノ場所）ニ異動ヲ生ジ國民職業能力申告令第四條第一項後段又ハ第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ爲サザル場合ニ於テ前後ノ居住地（國民職業能力申告令第二條第一號乃至第五號ニ該當スル要申告者ニシテ職業ニ從事スルモノニ付テハ同令ニ依ル就業地）ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスルトキハ厚生大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラズ前ノ居住地（國民職業能力申告令第二條第一號乃至第五號ニ該當スル要申告者ニシテ職業ニ從事スルモノニ付テハ同令ニ依ル就業地）ヲ管轄スル地方長官ヲ通達スベシ

第七條ノ二　地方長官徴用命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ出頭命令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ

地方長官ハ前項ノ出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭シタル者ニ付身體ノ狀態、居住及就業ノ場所、職業、技能程度、家庭ノ狀況、希望等ヲ檢査又ハ調査シテ服務ノ適否ヲ判定シ從事スベキ總動員業務、職業及場所ヲ決定シタル上徴用令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ

緊急ヲ要スルトキ又ハ前項ノ規定ニ依ル檢査若ハ調査ヲ爲スノ必要ナシト認ムルトキハ地方長官ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ直ニ徴用令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交付スルコトヲ得

第七條ノ三　前條第二項ノ規定ニ依ル檢査又ハ調査及服務ノ適否ノ判定ニ關スル事務ニ從事セシム

ル爲廳府縣ニ國民徴用官ヲ置ク

國民徴用官ハ保安部長タル警視廳部長、警察部長タル北海道廳若ハ府縣ノ部長又ハ地方長官ノ指定スル警視廳若ハ北海道廳ノ事務官、職業官若ハ技師若ハ地方事務官、地方職業官若ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツ

第七條ノ四　厚生大臣管理工場又ハ指定工場ノ事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ヲ徴用シ當該工場ニ於テ行フ總動員業務ニ從事セシムルニ當リテハ第六條乃至前條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ徴用命令ヲ發シ當該工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達シ地方長官ヲシテ徴用命令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交付セシメ又ハ徴用令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ

第八條　徴用令書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ但シ軍機保護上特ニ必要アルトキハ第二號又ハ第三號ニ揭グル事項ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　徴用セラルベキ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍、居住ノ場所（國民職業能力申告令第二條第一號乃至第五號ニ該當スル要申告者ニシテ職業ニ從事スルモノニ付テハ就業ノ場所）

二　從事スベキ總動員業務ヲ行フ官衙又ハ管理工場若ハ指定工場ノ名稱及所在地

三　從事スベキ總動員業務、職業及場所

四　徴用ノ期間
五　出頭スベキ日時及場所
六　其ノ他必要ト認ムル事項

前項第一號中居住ノ場所又ハ就業ノ場所ニ關スル事項ハ徴用セラルベキ者現ニ使用セラルル官衙、管理工場若ハ指定工場ニ於テ行フ總動員業務ニ從事セシムル爲ニ徴用セラルルモノナルトキ又ハ事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ナルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第九條　削除
第十條　削除
第十一條　出頭命令書又ハ徴用令書ノ交付ヲ受ケタル者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭スルコト能ハザル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

前項ノ規定ニ依ル屆出アリタル場合ニ於テ厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ出頭ノ日時若ハ場所ヲ變更シ又ハ其ノ者徴用ニ適セズト認ムルトキハ徴用ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出頭變更命令書又ハ徴用取消令書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スベシ

第十二條　被徴用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主被徴用者ヲ使用

スル官衙、管理工場若ハ指定工場、被徴用者ノ從事スル總動員業務、職業若ハ場所又ハ徴用ノ期間ニ付變更ヲ必要トスルトキハ厚生大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スベシ管理工場ニ使用セラルル者ニ付當該管理工場ヲ管理スル主務大臣其ノ徴用ノ變更ヲ必要トスルトキ亦同ジ

第十三條　厚生大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ被徴用者ヲ使用スル官衙、管理工場若ハ指定工場、被徴用者ノ從事スル總動員業務、職業若ハ場所又ハ徴用ノ期間ヲ變更スルコトヲ得厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ被徴用者ノ徴用ヲ變更スルコトヲ得

厚生大臣前項ノ規定ニ依リ徴用ヲ變更セントスルトキハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ所管大臣ニ、管理工場ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣ニ協議スベシ

第十四條　被徴用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主被徴用者ガ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ從事スルニ適セズト認ムルトキ又ハ其ノ者ヲシテ總動員業務ニ從事セシムル必要ナキニ至リタルトキハ厚生大臣ニ徴用ノ解除ヲ請求又ハ申請スベシ

被徴用者疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ從事シ難キ場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ所管大臣ニ、管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ在リテハ厚生大臣ニ

其ノ旨ヲ申出ヅルコトヲ得

第十五條　厚生大臣前條第一項ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テハ徴用ヲ解除スルコトヲ得

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前條第一項ノ規定ニ依ル請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ徴用ヲ解除スルコトヲ得

厚生大臣前項ノ規定ニ依リ官衙ニ使用セラルル者ノ徴用ヲ解除セントスルトキハ當該官衙ノ所管大臣ニ協議スベシ

第十六條　厚生大臣徴用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ徴用變更命令又ハ徴用解除命令ヲ發シ命令ノ定ムル所ニ依リ被徴用者ノ就業地ヲ管轄スル地方長官、徴用令書ヲ發シタル地方長官又ハ第八條第五號ノ出頭ノ場所ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達スベシ

地方長官徴用變更命令又ハ徴用解除命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付スベシ

被徴用者本令施行地外ノ場所ニ於テ就業スル場合ニ於テ徴用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ厚生大臣徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付スベシ

第十六條ノ二　第十二條前段、第十三條第一項第二項ノ規定ハ被徴用者タル管理工場又ハ指定工場ノ事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ徴用ノ變更又ハ解除ニ付之ヲ準用ス厚生大臣被徴用者タル管理工場又ハ指定工場ノ事業ハ（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ徴用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ徴用變更命令若ハ徴用解除命令ヲ發シ當該工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達シ地方長官ヨシテ徴用變更令書若ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付セシメ又ハ徴用變更令書若ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付スベシ

第十六條ノ三　被徴用者ハ忠誠ヲ旨トシ其ノ從事スル總動員業務ニ精勵スベシ

第十六條ノ四　被徴用者ノ表彰ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ五　被徴用者ニシテ管理工場又ハ指定工場ニ於テ行フ總動員業務ニ從事スルモノハ之ヲ應徴士ト稱ス

應徴士ノ懲戒、服制其ノ他應徴士ノ服務ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　被徴用者總動員業務ニ從事スル場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ長ノ指揮ヲ受ケ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ在リテハ前條第二項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依ルノ外當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主ノ指揮ヲ受クベシ

第十八條　被徴用者ニ對スル給與ハ其ノ者ノ技能程度、從事スル業務及場所等ニ應ジ且從前ノ給與其ノ他之ニ準ズベキ收入ヲ斟酌シテ被徴用者ヲ使用スル官衙ノ長又ハ事業主之ヲ支給スルモノトス

被徴用者ニ對スル給與ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣厚生大臣ニ協議シテ之ヲ定メ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主厚生大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ムベシ

第十九條　徴用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合ノ旅費ハ地方長官之ヲ支給スル管理工場又ハ指定工場ニ配置セラルル爲出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭シタル者ニ對シ前項ノ規定ニ依リ支給シタル旅費ノ額ハ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主國庫ニ之ヲ納入スベシ

被徴用者徴用令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合、徴用ヲ解除セラレ歸鄕スル場合又ハ被徴用者若ハ其ノ家族ノ危篤若ハ死亡ノ爲官衙ノ長若ハ事業主ノ通知ニ依リ被徴用者ノ家族出頭シ若ハ官衙ノ長若ハ事業主ノ許可ヲ得テ被徴用者一時歸鄕スル場合ノ旅費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ官衙ニ使用セラルル被徴用者ニ付テハ當該官衙ノ長之ヲ支給シ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル被徴用者ニ付テハ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主之ヲ支給スルモノトス

徴用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合又ハ被徴用者徴用令書ノ交付ヲ受ケ出頭

スル場合ニ於テ前金拂ヲ爲スニ非ザレバ出頭スルコト能ハザル者ノ旅費ハ其ノ者ノ居住地ノ市町村（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都）又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ一時繰替支辨スベシ

徴用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合ノ旅費及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

被徴用者徴用令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合ノ旅費及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル被徴用者ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣厚生大臣ニ協議シテ之ヲ定メ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル被徴用者ニ關シテハ厚生大臣之ヲ定ム

第十九條ノ二　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第六條ノ規定ニ基キ被徴用者ヲ使用スル管理工場又ハ指定工場ノ事業主ニ對シ被徴用者ノ使用又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ關シ命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條ノ三　被徴用者徴用セラレタルニ因リ其ノ家族ト世帶ヲ異ニスルニ至リタル場合其ノ他特別ノ事情アル場合又ハ被徴用者故意若ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾

病ニ罹リ之ガ爲徵用ヲ解除セラレタル場合ニ於テ本人又ハ家族ガ生活スルコト困難ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得

被徵用者徵用セラレ總動員業務ニ從事中故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シタル場合ニ於テ遺族ガ生活スルコト困難ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ家族又ハ遺族ノ範圍及扶助ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條ノ四　前條ノ規定ニ依ル扶助ガ被徵用者ニシテ管理工場若ハ指定工場ニ使用セラレ若ハ使用セラレタル者又ハ其ノ家族若ハ遺族ニ對シ爲サレタルモノナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主ヲシテ扶助ニ要シタル費用ヲ國庫ニ納入セシムルコトヲ得

第二十條　厚生大臣又ハ地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ徵用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官徵用ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ徵用セズ

一　陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（未ダ入營セザル者ヲ除ク）及召集中ノモノ（召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含ム）

二　陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）

三　陸海軍軍屬（被徵用者ニシテ之ニ該當スルニ至リタルモノヲ除ク）

四　醫療關係者職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スベキ者

五　獸醫師等職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スベキ者

六　船員法ノ船員、朝鮮船員令ノ船員及關東州船員令ノ船員

七　法令ニ依リ拘禁中ノ者

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特別ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ徵用セズ

一　餘人ヲ以テ代フベカラザル職ニ在ル官吏、待遇官吏又ハ公吏

二　帝國議會、東京都議會、道府縣會、市町村會其ノ他之ニ準ズベキモノノ議員

三　總動員業務ニ從事スル者ニシテ餘人ヲ以テ代フベカラザルモノ

第二十二條ノ二　厚生大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ徵用命令、徵用變更命令若ハ徵用解除命令ヲ俟タズ直ニ出頭命令書、徵用令書、徵用變更令書若ハ徵用解除令書ヲ發シ徵用セラルベキ者若ハ被徵用者ニ之ヲ交付セシメ又ハ地方長官ヲシテ第四條第二

項、第六條第一項、第七條ノ四第十二條乃至第十五條（第十六條ノ二第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十六條ノ二第二項、第十八條第二項若ハ第十九條ノ二ノ規定ニ依ル厚生大臣ノ職權ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官厚生大臣ノ職權ヲ行フ場合ニ於テハ同項ニ揭グル各條項ニ依ル總動員業務ヲ行フ官衙ノ所管大臣、當該官衙ノ所管大臣又ハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣ノ職權ハ各總動員業務ヲ行フ官衙ノ長、被徵用者ヲ使用スル官衙ノ長、當該官衙ノ長又ハ工場事業場管理令ニ依ル當該管理工場ノ監理官之ヲ行フ

第二十三條　厚生大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ヲシテ徵用ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシメ又ハ市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、橫濱市及神戸市ニ在リテハ區長）若ハ之ニ準ズベキモノヲシテ徵用ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、橫濱市及神戸市ニ在リテハ區長）又ハ之ニ準ズベキモノノ前項ノ規定ニ依リ徵用ニ關スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市町村（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都）又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ一時繰替支辨スベシ

前項ノ費用及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第二十四條　厚生大臣ハ本令ノ施行ニ關スル重要事項ニ付內閣總理大臣ニ協議スベシ

第二十五條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トシ總動員業務ヲ行フ官衙ノ所管大臣、被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣トアルハ官衙ノ所管大臣又ハ主務大臣ガ陸軍大臣又ハ海軍大臣タル場合ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

本令中地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシテ國民職業指導所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖島ニ在リテハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳國民職業指導所長南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トス

第七條ノ三第一項中廳府縣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各道、州若ハ廳、樺太廳又ハ南洋廳トシ同條第二項中保安部長タル警視廳部長、警察部長タル北海道廳若ハ府縣ノ部長トアルハ朝鮮ニ在リテハ內務部長タル道事務官、臺灣ニ在リテハ產業部長タル州事務官、樺太ニ在リテハ警察部長タル部長、南洋群島ニ在リテハ內務部長タル部長トシ警視廳若ハ北海道廳ノ事務官、職業官若ハ技師若ハ地方事務官、地方職業官若ハ地方技師トアルハ朝鮮ニ在リテハ道

ノ理事官若ハ技師、府尹、郡守若ハ島司、臺灣ニ在リテハ地方理事官若ハ地方技師、樺太ニ在リテハ樺太廳ノ書記官、事務官若ハ技師、南洋群島ニ在リテハ南洋廳ノ事務官若ハ技師トス

第二十六條　本令ニ規定スルモノノ外徴用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

2　國民徴用令施行規則

改正　昭和十四年七月十一日厚生省令第十七號
改正　昭和十五年十月十五日厚生省令第四十四號
改正　昭和十六年十二月一日厚生省令第二號
改正　昭和十六年十二月十六日厚生省令第五十六號
改正　昭和十七年十一月一日厚生省令第五十二號
改正　昭和十八年七月三十一日厚生省令第三十號

第一條　厚生大臣ノ發スル徴用命令、徴用變更命令又ハ徴用解除命令ハ文書ニ依リ之ヲ通達ス但シ緊急ニシテ之ニ依リ難キ場合ハ電信（至急官報）ニ依ル

第二條　削　除

第三條　國民徴用令（以下令ト稱ス）第七條ノ二ノ規定ニ依リ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ發スル出頭命令書ハ別表樣式第一號ニ依ル

第四條　徴用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭シ當該官吏ニ屆出ヅベシ

第四條ノ二　令第七條ノ四ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ發スル徴用命令ハ徴用セラルベキ事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ從事スベキ總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達ス

地方長官前項ノ徴用命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徴用令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交

付スベシ

徴用セラルベキ事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ従事スベキ総動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ニ以上ノ都道府縣ニ在ルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ厚生大臣徴用令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交付ス

第五條　徴用令書、出頭變更令書、徴用取消令書、徴用變更令書及徴用解除令書ハ別表様式第二號ニ依ル

第六條　徴用令書、出頭變更令書及徴用取消令書ハ國民職業指導所長又ハ市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長以下之ニ同ジ）若ハ之ニ準ズベキモノヲシテ徴用セラルベキ者又ハ被徴用者ニ之ヲ交付セシムベシ

第七條　徴用セラルベキ者又ハ被徴用者徴用令書、出頭變更令書又ハ徴用取消令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該令書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ

第八條　徴用セラルベキ者又ハ被徴用者徴用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ徴用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ヅベシ

第九條　令第十一條第一項ノ規定ニ依ル届出ハ左ノ書類ヲ添附シ出頭命令書又ハ徴用令書ヲ發シタ

ル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク之ヲ爲スベシ

一　傷痍疾病ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書（已ムヲ得ザル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハザルトキハ警察官吏ノ證明書

二　天災其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏船長若ハ驛長ノ證明書

第十條　令第十六條第一項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ發スル徴用變更命令又ハ徴用解除命令ハ被徴用者ガ指定ノ場所ニ出頭スル前ニ在リテハ徴用令書ヲ發シタル地方長官、被徴用者ガ指定ノ場所ニ出頭シタル場合ニ在リテハ出頭地ヲ管轄スル地方長官、被徴用者ガ總動員業務ニ從事スル場合ニ在リテハ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達ス

第十一條　令第十六條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ發スル徴用變更令書又ハ徴用解除令書ハ被徴用者總動員業務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ者ヲ使用スル官衙ノ長又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主ヲ經由シテ之ヲ交付スベシ

第十二條　前條ノ規定ハ令第十六條第三項ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ於テ徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條ノ二　令第十六條ノ二第二項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ發スル徴用變更命令又ハ徴用解除命

令ハ被徴用者タル事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ従事スル總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達ス

地方長官前項ノ徴用變更命令又ハ徴用解除命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付スベシ

被徴用者タル事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ従事スル總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ニ以上ノ都道府縣ニ在ルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ厚生大臣徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付ス

第十三條　被徴用者徴用變更令書又ハ徴用解除令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該令書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ

第十三條ノ二　重要事業場勞務管理令第四條第一項又ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ニシテ被徴用者ノ給與ニ關スルモノニ付テハ令第十八條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノ（令第二十二條ノ二ノ規定ニ依ル場合ヲ含ム）ト看做ス

第十四條　厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ徴用ニ關シ徴用セラルベキ者又ハ其ノ者ヲ使用シ若ハ使用シタル者ヨリ報告ヲ徴スルコトヲ得

前項ノ報告ハ緊急ノ必要アル場合又ハ輕微ナル事項ニ付テハ國民職業指導所長之ヲ徴スルコトヲ

得

第十五條　當該官吏令第二十條第二項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ニハ別表樣式第三號ノ證票ヲ携帶スベシ

第十六條　管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用スル被徴用者ニシテ死亡シタルモノアルトキハ遲滯ナク左ニ揭グル事項ヲ厚生大臣竝ニ徴用令書ヲ發シタル地方長官ニ報告スベシ

一　氏名、出生ノ年月日及本籍

二　徴用令書發付者、發付年月日及發付番號

三　死亡ノ年　日　事由

四　死亡ノ前後ノ處置竝ニ事業主ガ他ノ法令ノ規定ニ依リ爲シタル扶助其ノ他之ニ準ズベキ出捐ノ狀況

五　遺族ノ住所

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ令第二十二條ノ二ノ規定ニ依ルモノトス

一　戰爭ノ際ニ於ケル戰鬪行爲ニ因ル災害及之ニ起因シテ生ズル災害ニ際シ緊急徴用ノ必要アル場合

二　徴用變更又ハ徴用解除ニ關シ厚生大臣ノ定ムル場合

前項ノ場合ニ在リテハ本令中厚生大臣トアルハ地方長官トス

第十八條　地方長官前條ノ規定ニ依リ職權ヲ行使シタルトキハ厚生大臣ニ其ノ旨報告スベシ

3　應徴士服務紀律

（昭和十八年八月十日厚生省令第三十六號）

第一條　國民徴用令第十六條ノ五ノ規定ニ基ク應徴士ノ服務ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ルノ外第二條　應徴士ハ徴用ノ本義ニ則リ左ノ紀律ヲ遵守スベシ

一　應徴士ハ職紀ヲ尚ビ責任ヲ重ンジ全能ヲ奮ヒ誠心職務ニ勉勵スベキコト

二　應徴士ハ至誠上長ニ服從シ上下相信倚シ和衷協同互ニ敬愛スベキコト

三　應徴士ハ率先挺身部下ノ模範トナリ其ノ信望ヲ一身ニ聚ムル如キ行動ヲ爲スベキコト

四　應徴士ハ智識技能ノ錬磨ニ努ムベキコト

五　應徴士ハ氣節ヲ尚ビ廉恥ヲ重ンジ苟モ應徴士タルノ名譽ヲ毀損スルガ如キ所爲アルベカラザルコト

六　應徴士ハ居常儉素ヲ旨トシ質實剛毅ノ氣風ヲ振起シ堅忍不拔ノ精神ヲ涵養スベキコト

七　應徴士ハ保健衛生ニ留意シ體力ノ錬成ニ努ムベキコト

八　應徴士ハ職場保安ニ留意シ災害豫防其ノ他ノ措置ニ萬全ヲ期スベキコト

九　應徴士ハ機械、器具、材料、製品其ノ他ノ物資ヲ尊重シ苟モ粗略ノ取扱アルベカラザルコト

十　應徵士ハ自己ノ職務ニ關スルト否トヲ否ハズ知悉シタル機密ヲ保持シ防諜上遺憾ナキヲ期スベキコト

第三條　事業主タル應徵士ハ生産遂行ノ全責任ヲ負荷セラレタルモノナルノ自覺ニ徹シ率先垂範前條ノ紀律ヲ遵守スルノ外常ニ士氣ノ鼓舞ニ努メ明確ナル企圖ノ下ニ適時適切ナル指揮ヲ爲スト共ニ工場事業場總員一家ノ肉親的團結ヲ圖リ以テ戰力增强ノ責ヲ果スベシ

第四條　應徵士前二條ノ紀律ニ違背シ其ノ他應徵士タルノ本分ニ悖ル所爲アリタルトキハ之ヲ懲戒スルコトヲ得

第五條　懲戒ハ左ノ三種トス

一　訓告

二　譴責

三　罷免

訓告及譴責ハ文書ヲ以テ之ヲ行ヒ罷免ハ徵用解除ニ依リ之ヲ行フ

第六條　罷免及事業主タル應徵士ノ懲戒ハ厚生大臣、其ノ他ノ懲戒ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監）之ヲ行フ

厚生大臣懲戒（訓告ヲ除ク）ヲ行ヒタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條　應徵士ハ別表制式ニ依ル徵章ヲ左肋ニ裝著スベシ

被徵用者ニ非ザレバ前項ノ規定ニ依ル徵章ヲ裝著スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

4 國民徵用扶助規則

改正　昭和十六年十二月二十二日厚生省令第六十八號
昭和十八年六月九日厚生省令第十七號

第一條　國民徵用令第十九條ノ三ノ規定ニ依ル扶助ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　國民徵用令第十九條ノ三第一項ノ家族ハ左ニ掲グルモノトス

一　被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ配偶者（屆出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下同ジ）又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

二　前號ニ掲グル者ヲ除ク外被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者ノ徵用セラレタル時又ハ徵用ヲ解除セラレタル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

三　前二號ニ掲グル者ヲ除クノ外被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者ノ徵用セラレタル時又ハ徵用ヲ解除セラレタル時之ト同一ノ世帶ニ在リ且引續キ其ノ世帶ニ在ルモノ

第三條　國民徵用令第十九條ノ三第二項ノ遺族ハ左ニ掲グルモノトス

一　死亡シタル被徵用者タリシ者ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ガ死亡ノ時屬シタル家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

二　前號ニ掲グル者ヲ除クノ外死亡シタル被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ死亡ノ時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者

三　前二號ニ掲グル者ヲ除クノ外死亡シタル被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ死亡ノ時屬シタル家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル

第四條　扶助ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テノミ之ヲ爲ス

一　被徵用者徵用セラレタルニ因リ家族ト世帶ヲ異ニスルニ至リタル場合ニ於テ其ノ家族生活スルコト困難ナルトキ

二　被徵用者故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲徵用ヲ解除セラレタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ家族生活スルコト困難ナルトキ

三　被徵用者徵用セラレ總動員業務ニ從事中故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シタル場合ニ於テ其ノ遺族生活スルコト困難ナルトキ

被徵用者徵用セラレタル場合ニ於テ家族ト世帶ヲ異ニセザル場合ト雖モ特別ノ事情ニ因リ其ノ家族ガ生活スルコト困難ナルトキハ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得

第五條　扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

扶助ノ種類ハ生活扶助、醫療、助産、生業扶助及埋葬費ノ支給トス

第六條　扶助ハ扶助ヲ受ケントスル者ノ住所地地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）之ヲ行フ

扶助ハ扶助ヲ受ケントスル者又ハ其ノ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノノ申請ニ依リ之ヲ行フ但シ地方長官必要アリト認ムルトキハ其ノ申請ナキ場合ト雖モ之ヲ行フコトヲ得

扶助ノ程度及方法ハ地方長官被徴用者ノ支給ヲ受クル給與又ハ被徴用者若ハ被徴用者タリシ者及扶助ヲ受ケントスル者ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ受クル保險給付、扶助其ノ他之ニ準ズベキモノ、所得、勞働能力其ノ他家庭ノ事情等ヲ調査シ之ヲ決定ス

第七條　扶助ハ扶助ヲ受クル者ノ居宅ニ於テ之ヲ行フ

地方長官居宅扶助ヲ爲スコト能ハズ又ハ之ヲ適當ナラズト認ムルトキハ扶助ヲ受クル者ヲ適當ナル施設ニ收容シ又ハ收容ヲ委託シテ扶助スルコトヲ得

第八條　生活扶助ハ金錢又ハ物品ノ給與ニ依リ之ヲ行フ

第九條　生業扶助ハ生業ニ要スル資金、器具、資料ノ給與若ハ貸與ヲ爲シ又ハ生業ニ必要ナル技能ヲ授クルコトニ依リ之ヲ行フ

第十條　居宅扶助ノ場合ニ於テ生活扶助ノ爲支出スル費用ハ一人一日三十五錢以内トス

一世帶ニ於テ扶助ヲ受クル者二人以上アルトキハ前項ノ費用ハ之ヲ減額スルコトヲ得

第十一條　居宅扶助ノ場合ニ於テ醫療及生業扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ地方長官厚生大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十二條　居宅扶助ノ場合ニ於テ助産ノ爲支出スル費用ハ十二圓以内トス

第十三條　第七條第二項ノ規定ニ依ル收容扶助ノ場合ニ於テ扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ地方長官厚生大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十四條　扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ埋葬ヲ行フ遺族ニ對シ埋葬費ヲ給ス

埋葬ノ爲支出スル費用ハ十二圓以内トス

扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ埋葬ヲ行フ遺族ナキトキハ扶助ヲ行ヒタル地方長官ニ於テ埋葬ヲ行フベシ

第十五條　災害ニ因リ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ一世帶總額三十圓ヲ限リ生活扶助ノ爲金錢若ハ物品ヲ臨時給與シ又ハ之ヲ併セ給與スルコトヲ得

第十六條　被徴用者又ハ被徴用者タリシ者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者竝ニ其ノ家族及遺族ニ對シ扶助ヲ爲サズ

第十七條　被徴用者又ハ被徴用者タリシ者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其

ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間其ノ者竝ニ其ノ家族及遺族ニ對シ扶助ヲ爲サズ

第十八條　被徵用者ノ家族又ハ遺族六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同ジ

第十九條　被徵用者ニシテ逃亡シタル者ニ付テハソノ間其ノ家族ニ對シ扶助ヲ爲サズ

第二十條　被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニシテ怠惰又ハ素行不良ナル者ニ付テハ其ノ被徵用者タリシ者竝ニ其ノ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ家族及遺族ニ對シ情狀ニ因リ扶助ヲ爲サズ又ハ扶助ノ程度ヲ減少スルコトヲ得

被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ家族又ハ遺族ニシテ怠惰又ハ素行不良ナル者ニ對シ亦前項ニ同ジ

第二十一條　被徵用者タリシ者ニシテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ニ對シテハ扶助ヲ爲サズ

第二十二條　被徵用者ノ家族ニ對スル扶助ハ必要アル場合ニ於テハ被徵用者徵用解除後仍二十日以內之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十三條　被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ家族ニ對スル扶助ハ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者

死亡後仍三月以內之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ遺族トシテノ扶助ハ之ヲ爲サズ

第二十四條　被徵用者第四條第一項第二號ニ該當スル場合ニ於テハ被徵用者ノ家族ニ對スル扶助ハ被徵用者徵用解除後仍三月以內之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間被徵用者タリシ者ノ家族トシテノ扶助ハ之ヲ爲サズ

第二十五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ第十條第一項、第十二條第十四條第二項及第十五條ノ規定ニ依ル金額ヲ增加スルコトヲ得

第二十六條　扶助ノ廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ハ地方長官之ヲ行フ

第二十七條　扶助ノ開始、廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ノ處分ハ扶助ヲ受クル者ノ住所地市町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲ經テ之ヲ通達ス

地方長官扶助ノ開始、廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ヲ爲シタルトキハ被徵用者ヲ使用シ又ハ使用シタル官衙ノ長又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ其ノ旨通知スベシ

第二十八條　管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ被徵用者ニシテ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用セ

ラレ又ハ使用セラレタルモノノ徴用ニ關スル事項ニ付扶助ヲ受ケントスル者ノ住所地地方長官又ハ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノヨリ照會ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ通知スベシ

管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用スル被徴用者故意又ハ重大ナル過失ニ因ル非ズシテ業務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲徴用ヲ解除セラレ又ハ死亡シタルトキハ速ニ當該被徴用者タリシ者ノ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノニ其ノ旨通知スベシ

管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用スル扶助ヲ受クル家族ヲ有スル被徴用者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ速ニ扶助ヲ行フ地方長官ニ其ノ旨通知スベシ

一　支給ヲ受クル給料、賃金又ハ給料、賃金ニ準ズベキ給與ノ額ニ著シキ變更アリ扶助ノ廢止又ハ扶助ノ程度ノ變更ヲ要スルト認メラルルトキ

二　第十六條、第十七條、第十九條又ハ第二十條第一項ニ該當スルトキ

三　從事スベキ總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ニ付徴用ヲ變更セラレタルトキ

第二十九條　扶助ヲ拒マレタル者又ハ扶助ヲ廢止若ハ停止セラレタル者ハ六十日以內ニ厚生大臣ニ對シ更ニ審査ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出願ハ文書ヲ以テシ處分ヲ爲シタル地方長官ヲ經由シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

厚生大臣ハ審査ノ上必要ト認ムルトキハ地方長官ヲシテ扶助ヲ爲サシメ又ハ扶助ノ廢止若ハ停止

ノ處分ヲ取消サシムルコトヲ得

第三十條　管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ被徴用者ニシテ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用セラレ若ハ使用セラレタルモノ又ハ其ノ家族若ハ遺族ニ對シ爲サレタル扶助ニ要シタル費用ヲ國庫ニ納入スベシ

被徴用者徴用ヲ解除セラレ又ハ死亡シタル場合ニ於テ事業主ガ本人又ハ遺族ニ對シ他ノ法令ノ規定ニ依ル扶助又ハ之ニ準ズベキ程度ノ出捐ヲ爲シタルトキハ厚生大臣ハ前項ノ費用ノ納入ヲ免除スルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　（昭和十八年六月九日厚生省令第十七號）

本令ハ昭和十八年五月二十二日ヨリ之ヲ適用ス

5　國民徴用扶助規則施行細則準則

第一條　國民徴用扶助規則ニ依リ扶助ヲ受ケントスル者ハ第一號様式ニ依リ其ノ住所地市町村長ヲ經テ知事ニ申請スベシ

扶助ヲ受ケントスル者一世帯二人以上アルトキハ世帯主又ハ之ニ代ルベキ者前項ニ依リ申請スベシ

第二條　市町村長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ第二號様式ノ扶助調書ヲ作成シテ戸籍謄本其ノ他必要書類ヲ添附シ速ニ知事ニ進達スベシ

市町村長前條ノ申請ナキ場合ニ於テ扶助ノ必要アリト認ムル者アルトキハ第一號様式ニ依リ知事ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ第一項ノ扶助調書ヲ作成シ戸籍謄本其ノ他必要書類ヲ添附スベシ

第三條　市町村長ハ國民徴用扶助規則第二十二條ノ規定ニ依リ扶助ヲ繼續スル必要アリト認ムルモノアルトキハ其ノ期間竝ニ理由ヲ具シ被徴用者ノ徴用解除前豫メ知事ニ具申スベシ

第四條　收容扶助ノ場合ニ於テ生活扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　市ニ在リテハ　一人一日　何　錢

二　町村ニ在リテハ　一人一日　何　錢

生活扶助ノ爲支出スル費用ニシテ前項ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

第五條　醫療ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　居宅扶助ノ場合

診察料	一人一回	何　錢
藥治料	一人一日	何　錢
處置料	一人一回	何　錢
手術料	一人一回	何　錢
檢査料竝ニ注射料	一人一回	何　錢
文書料	一　通	何　錢

以上ノ區分ニ依ラザル場合　一人一日　何　錢

二　收容扶助ノ場合

入院料　一人一日　何　錢

醫療ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

第六條　收容扶助ノ場合ニ於テ助産ノ爲支出スル費用ハ一人一日何圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
助産ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス
第七條　生業扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ
一　資金、器具、資料ノ給與若ハ貸與ノ場合　一世帶ニ付何圓
二　生業ニ必要ナル技能ヲ授クル場合
居宅扶助ノ場合　一人一日　何　錢
收容扶助ノ場合　一人一日　何　錢
生業扶助ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス
第八條　扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ埋葬ヲ行ヒタル遺族ニシテ埋葬費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ第三號樣式ニ依リ死亡シタル者ノ住所地市町村長ヲ經テ知事ニ申請スベシ
市町村長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ適否ヲ調査シ直ニ知事ニ進達スベシ
扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行フ遺族ナキトキハ市町村長ハ速ニ知事ニ報告スベシ
第九條　市町村長ハ第四號樣式ニ依ル徵用扶助臺帳ヲ備ヘ記載事項ニ異動アル毎ニ加除訂正シ置クベシ

第十條　扶助ヲ受クル者申請書記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ第一條ノ申請人又ハ之ニ代ル者ヨリ直ニ住所地（住所移轉ノ場合ハ舊住所地）市町村長ヲ經テ知事ニ屆出ヅベシ
第十一條　市町村長ハ扶助ノ廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ノ必要アリト認メタルトキハ其ノ理由及意見ヲ具シ直ニ知事ニ報告スベシ
第十二條　市町村長ハ常ニ被扶助者ノ生活狀況ニ注意シ每年九月、三月ノ末日ヲ期トシ其ノ狀況ヲ翌月十日迄ニ知事ニ報告スベシ
第十三條　國民徵用扶助規則第二十九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ審査ヲ出願スル場合ニ於テハ扶助ノ拒否又ハ廢止、停止ノ指令ヲ交付シタル市町村長ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ　ヨリ之ヲ施行ス

第四條　生活扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ（居宅扶助ノ場合ニ於テ生活扶助ノ爲支出スル費用ヲ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ省令ノ限度額ヲ超エ規定スル府縣ニ於ケル例）
一　居宅扶助ノ場合
市ニ在リテハ　一人一日　何　錢
町村ニ在リテハ　一人一日　何　錢

二　收容扶助ノ場合

市ニ在リテハ　一人一日　何　錢

町村ニ在リテハ　一人一日　何　錢

收容扶助ノ場合ニ於ケル生活扶助ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

6　國民徵用扶助規則運營方針及事務取扱要領

（昭和十六年十二月二十四日厚生省發職第一九八號　職業局長ヨリ各地方長官宛通牒）

第一　國民徵用扶助規則運營方針

一　本扶助制度ハ被徵用者ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ安ンジテ總動員業務ニ精勵セシムルト共ニ應召軍人ト同ジ感激ト責任トヲ以テ應徵セシメ以テ徵用ノ圓滑ヲ期セントスルモノナリ

二　被徵用者ハ賃金、給料等ヲ受クルモノナルヲ以テ徵用ニ因リ直ニ家族ガ生活ニ困窮スルモノト見ルヲ得ズ且又新ニ徵用セラレタル者ノ給與ニ關シテハ勞働條件、生活實實等ヲ考慮シ從前ノ收入ト甚シキ懸隔ナキ樣必要ニ應ジテハ相當額ノ補給ヲ爲ス樣指導シツツアリ此ノ點軍事扶助ト多少趣ヲ異ニスルヲ以テ充分留意スルコト

三　徵用工場事業場ニ對シテハ被徵用者ノ住居費及食費ノ適正ヲ期シ出來ルダケ家族ニ送金ヲ爲シ得ル樣致シツツアルモ、地方長官ニ於テモ此ノ點充分指導スルコト

四　扶助ノ決定ニ當リテハ被徵用者ノ支給ヲ受クル給與又ハ被徵用者若ハ被徵用者タリシ者及扶助ヲ受ケントスル者ノ健康保險法、工場法、勞働者災害扶助法等ノ規定ニ依リ受クル保險給

付、扶助其ノ他之ニ準ズベキモノ及其ノ所得等ヲ調査シ扶助ノ程度ヲ決定スルト共ニ扶助ヲ受クル者ノ勞働能力、家庭ノ事情等ヲ考慮シ扶助ノ種類、方法等ノ適正ヲ期スルコト

五　被徴用者ノ家族ニシテ軍事扶助法ニ依リ扶助ヲ受ケ得ル者ハ同法ニ依リ扶助ヲ行ヒ、本規則ヲ適用セザルコト

六　本扶助ハ貧困者ノ救護ト性質ヲ異ニスルヲ以テ本規則ニ該當スル者ハ本規則ヲ適用シ救護法、母子保護法等ハ之ヲ適用セザルコト

七　災害ニ際シ罹災救助基金法ニ依リ救助ヲ受クル者ニ對シテハ同一ノ費用ニ付本規則ハ適用セザルコト

第二　事務取扱要領

一　國民徴用扶助規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條及第三條ノ配偶者ニハ所謂内縁關係ノ者ヲモ包含セシムルコトトセルヲ以テ此ノ點特ニ注意ノコト

二　被徴用者ノ家族ヲ扶助スルハ原則トシテ被徴用者ガ徴用セラレタルニ因リ家族ト世帶ヲ異ニスルニ至リタル場合ニ限リタリ之ヲ徴用ニ際シテハ賃金給料等ヲ支給サレ軍人ノ入營、應召ノ場合ト異ル所アルヲ以テナリ而シテ特別ノ事情ニ因リ生活困難ナルトキハ世帶ヲ異ニセザル場合ト雖モ例外トシテ扶助ヲ爲シ得ルノ途ヲ開キタリ然レドモ例外規定ハ運用ニ當リ愼重ヲ期シ

濫用ニ陷ラザル樣留意スルコト尚特別ノ事情トハ家族ノ重病、增員、臨時災害等眞ニ事情已ムヲ得ザルモノニ限ルコト

三　扶助ノ決定ニ當リテハ特ニ規則第六條第三項ニ留意シ各種ノ收入ヲ充分調査シ眞ニ其ノ足ラザル所ヲ補フ趣旨ニ於テ取扱ヒ苟モ濫給ニ渉ラザル樣注意スルコト

被徴用者家族扶助ニ際シテハ被徴用者ノ支給ヲ受クル給與ヲ調査シ家族ヘノ送金額ヲ調査スルコト而シテ送金ナキ場合ト雖モ送金可能額ハ送金アリタルモノト看做シ取扱フコト送金可能額ニ達セザル場合ト雖モ亦同ジ

他ノ法令ノ規定ニ依リ受クル保險給付、扶助ニシテ扶助ニ際シ留意スベキモノハ概ネ左ノ如シ

（イ）健康保險法　　埋葬料
　　世帶員ニ對スル補給金

（ロ）勞働者年金保險法
　　養老年金
　　廢疾年金及廢疾手當金
　　遺族年金　脫退手當金
　　障害扶助料　打切扶助料

（ハ）工場法

遺族扶助料　葬祭料

（ニ）労働者災害扶助法

障害扶助料　打切扶助料

遺族扶助料　葬祭料

（ホ）陸軍共濟組合規則

障害年金　障害一時金

脫退年金　脫退一時金　勤續給付金

死亡給付金

特症給付金　罹災見舞金

世帶員ニ對スル補給金

葬祭料

（ヘ）海軍共濟組合規則

公傷病年金　公傷病一時金

特症一時金

脫退年金

公傷病遺族一時金

埋葬料

世帶員給付

（ト）雇員扶助令及傭人扶助令

障害扶助料　打切扶助料

遺族扶助料　葬祭料

其ノ他之ニ準ズベキモノトハ退職積立金及退職手當法ニ依リ退職手當金又ハ工業主及職工ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付若ハ事業主ノ支出セル見舞金、慰勞金、弔慰金等ヲ謂フ

四　規則第九條ノ生業扶助ヲ爲スニ當リテハ一度給シタル原資ヲ消盡セシメザル樣注意スルコト殊ニ一時ニ多額ノ資金ヲ給シ而モ經驗ナキ業務ヲ營マシムルガ如キハ失敗ニ歸スル虞アルヲ以テ成ル可ク之ヲ避クルコト又生業扶助ヲ爲ス場合ニ於テモ之ニ依テ尙生活費ヲ得難キ場合又ハ當初熟練ヲ要スル期間ハ現金給與又現品給與ヲ併給スルハ餘儀ナキ場合アルベキモ元來生業扶助ハ之ニ依リ自營ノ途ヲ與フルモノニ付成ルベク併給ヲ要セザル樣職業ノ選擇ニ注意スルコト

五　規則第十一條ノ居宅扶助ノ場合ニ於ケル醫療及生業扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ軍事扶助ト同額ノ標準ニ依リ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムルコト

六　醫療扶助ヲ敏速適切ナラシムル爲豫メ市町村長等ニ於テ醫師ニ交渉シ置キ必要アル場合直ニ醫療ヲ受ケシメ一面ニ於テ急速醫療扶助開始ノ手續ヲ爲スヲ適當ナリトス

七　規則第十三條ニ依リ收容扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ヲ定ムルニ當リテハ軍事扶助ト同額ノ標準ニ依リ厚生大臣ノ認可ヲ申請スルコト

八　規則第十九條ノ逃亡トハ寄宿舍社宅等定メラレタル住所ヲ離レ相當期間出勤セザル者ヲ謂フ自宅通勤者ニシテ故ナク出勤セズ又ハ寄宿舍ニ居ルモ故ナク出勤セザル場合等ハ規則第二十條ニ所謂怠惰トシテ取扱フベキモノトス

九　規則第二十二條ハ被徵用者徵用期間滿了ニ依リ解除セラレタル場合ニ於テ次ノ收入アル職ニ就クマデノ期間ヲ見込必要アル場合ノ猶豫規定ナルヲ以テ解除ト同時ニ一定ノ手當金等ノ現給ヲ受ケ其ノ必要ナキニ於テハ之ヲ行ハズ俸給ニ陷ラザル樣注意ノコト

十　規則第二十三條ハ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ家族ニ對シ扶助ヲ爲シ居ル場合、其ノ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者死亡シタル場合ハ死亡後仍三月以內從前通リ扶助ヲ繼續シ得ル規定ナリ從ツテ死亡後三ケ月ハ從前通リノ扶助ヲ繼續スルコト

而シテ三ケ月ヲ經タルトキハ他ノ法令ノ規定ニ依ル扶助又ハ之ニ準ズベキ程度ノ事業主ノ出捐ニカカル弔慰金等ヲ受領セルトキハ以後本規則ノ扶助ハ之ヲ行ハザルコト

十一　規則第二十四條モ前項ノ趣旨ニ準ジ取扱フモノトス

十二　規則第二十五條ニ依リ必要アル場合ハ軍事扶助ニ於テ現ニ行ヒツツアルト同額マデ增加スル樣厚生大臣ニ認可ヲ申請スルコト

十三　規則第二十八條第二項ニ依リ業務上死亡シタル者アル場合事業主ハ死亡シタル者ノ徵用前ノ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノニ其ノ旨通知スベキモ其ノ者ノ遺族ガ現ニソレト異ナル所ニ住所ヲ有スルトキハ遺族ノ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノニ通知スルヲ可トス

十四　地方長官ハ每年九月末日及三月末日迄ノ規則第三十條第一項ニ揭グル扶助ニ要シタル金額ヲ各翌月末日迄ニ取纏メ當該事業主宛納入告知書ヲ發シ一ケ月以內ニ納入セシムルコト

規則第三十條第二項ノ法令ノ規定ニ依ル扶助トハ工場法又ハ勞働者災害扶助法等ニ依リ解除トキノ障害扶助料及打切扶助料、死亡ノトキノ遺族扶助料及葬祭料ヲ謂フ

之ニ準ズベキ程度ノ出捐トハ名義ノ如何ヲ問ハズ右ト同程度以上ノ金額ニシテ事業主ノ支出セルモノヲ謂フ

十四ノ一　規則第二十二條又ハ第二十三條、第二十四條ニ於ケル二十日又ハ三ケ月分ノ扶助費ハ事業主ニ負擔セシムルコト

十五　其ノ他詳細ニ關シテハ軍事扶助法ノ運用ニ準ジ取扱フコト

十六　徵用扶助ニ關スル連絡通報ニ關シ本規則中事業主ニ於テ又ハ事業主ニ對シテ爲スベキ事項ハ被徵用者ヲ使用スル官衙ニ在リテハ其ノ長ニ於テ又ハ其ノ長ニ對シ爲スベキモノトス

十七　規則第二十七條第二項ノ通知ハ第一號樣式ニ依ルコト

十八　規則第二十八條第一項乃至第三項ノ通知ハ第二號樣式乃至第四號樣式ニ依リ之ヲ爲サシムルコト

國民徵用讀本終

東京市政調査會 20.[illegible]20

國民徵用讀本

昭和十九年八月二十五日印刷
昭和十九年八月三十日第一版發行

定價㊟二圓五十錢
特別行爲稅相當額二十錢
賣價二圓七十錢

出版會承認ら210204
發行部數5.000

著者　厚生研究會
發行者　東京都神田區西神田二ノ廿一　松川健文
印刷者　東京都小石川區柳町一九　小石川印刷株式會社（東京四六二）

發行所　東京都神田區西神田二ノ二一　株式會社　新紀元社
會員番號一一二五八一
振替東京八三八七四
電話（九段）四〇一三

配給元　東京都神田區淡路町二　日本出版配給株式會社

トエ8メ-9

軍需工場入門叢書

厚生省勤労局監修　厚生研究會著

機械工場讀本　價一圓七十錢　〒三十錢

航空機工場讀本（軍需省推薦）　價二圓十錢　〒三十錢

造船工場讀本　價二圓十錢　〒三十錢

自動車工場讀本　價二圓十錢　〒三十錢

電機工場讀本　價二圓十錢　〒三十錢

本書を技能者養成所並に工場青年學校教科書として御使用の向きは「通報書」を御送り下さい。